

検査の説明と同意書

造影剤使用について

- 異常の原因を調べるために、草加市立病院で造影剤を使用した検査を行います。
造影剤(CTなど：ヨード系造影剤、MRI：ガドリニウム系造影剤)を静脈内に投与します。造影剤を用いることにより、病気をより明瞭に描出できます。
- 造影剤を用いない検査も可能ですが、診断能が著しく低下することがあります。また、検査の種類によっては、造影剤を用いないとできないものもあります。
- 造影剤は一般に安全で、広く用いられている検査薬(検査の4割程度が造影検査)ですが、副作用が起きることがあります。副作用には造影剤注射直後から1時間以内に発生する即時性副作用と、7日目程度までに発生する遅発性副作用があります。
異常を感じたら、連絡または来院してください。連絡先：048-946-2200(担当科または放射線科)

☆ ヨード系造影剤の即時性副作用の程度、種類、頻度(片山らによる168363例を対象にした調査による、1990年)

副作用の程度	副作用の種類	副作用の頻度
軽度	悪心・嘔吐、熱感、かゆみ・じんま疹、くしゃみなど	3% (100人に3人程度)
重篤以上	呼吸困難、急激な血圧低下、意識消失など	0.04% (2500人に1人程度)

- ☆ ヨード系造影剤の遅発性副作用の頻度は3~8%で、そのほとんどは軽度の症状とされています。
- ☆ ガドリニウム系造影剤にも同様の副作用がありますが、頻度はやや低い(1.3%)とされています。

CT・アイソトープ検査による被ばくについて

放射線が健康に及ぼす影響に発がんがあります。放射線によるがん死亡率は、これまでの知見から100mSvの被ばくで一生涯に約0.5%増加し、これより少ない線量では増えるとも増えないともいえないと、結論づけられています。つまり100mSv以下では、生活習慣による発ガンと放射線による発ガンと区別が出来ないといわれています。

放射線量	生活習慣	発がんリスク
CT検査 (10~20mSv)	—	1.0
アイソトープ検査 (10~20mSv)	—	1.0
100mSv以下の被ばく	—	1.0
100~200mSv	野菜不足	1.06~1.08倍
200~500mSv	塩分の取り過ぎ	1.11~1.19倍
500~1000mSv	肥満・痩せ過ぎ	1.22~1.4倍
1000~2000mSv	喫煙・飲酒	1.6~1.8倍

* 国立がん研究センター 分析データによる

なお、当院では診療放射線技師が定期的にCT・アイソトープ装置の点検を行い、また、無駄な被ばくをしないよう可能な限り低い線量で検査が出来るように管理しています。

* 医療法施行規則の一部改正により令和2年4月より診療用放射線に係わる安全管理体制に関する規定が施行され、放射線検査については医療放射線被ばくの説明と同意が義務づけられました。

MRIチェックシート

- ・脳動脈クリップ
- ・バルブ式シャント(脳外科)
- ・人工弁
- ・血管内ステント
- ・胸骨ワイヤー
- ・人工関節
- ・人工内耳
- ・義眼
- ・デンタルインプラント
- ・歯科矯正
- ・避妊リング
- ・耳つぼダイエット
- ・手術による体内金属 ()
- ・内視鏡検査によるクリッピング、マーキング
- ・閉所恐怖症である
- ・入れ墨、アートメイクをしている
- ・妊娠している、またはその可能性がある
- ・金属加工業に従事した経験があり、眼内等に微細金属片が残っている可能性がある
- ・金属片による負傷の経験があり、体内に金属片が残っている可能性がある

◎MRCPは、検査前8時間は絶飲食です。

◎検査予約30分前までに総合受付にお越し下さい。次の予約との関係上、検査開始時刻が遅くなる場合があります。